



暮らしを支える 水のこれから

蛇口をひねれば、いつでもきれいな水道水が使えること。使った水が適切に処理され、再び自然に返されること。こうした「当たり前」をこれからも守り続けるため、今、上下水道事業は大きな転換期を迎えています。

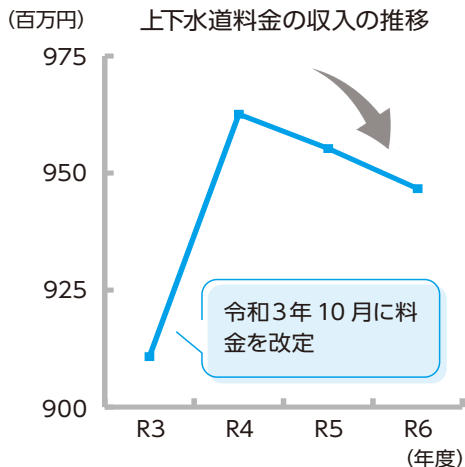
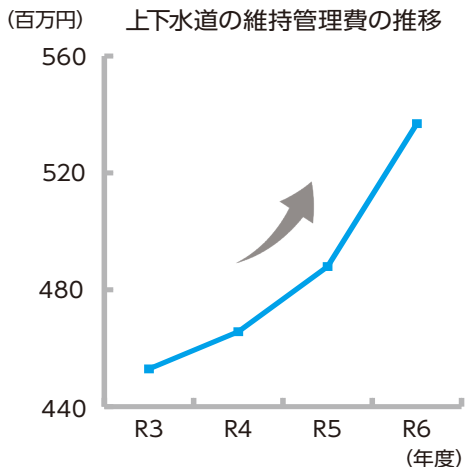
今回の特集では、上下水道事業の現状や課題、将来に向けた取り組みを紹介します。
問い合わせ 上下水道課

**上下水道事業の
主な財源はどこから？**

町の一般的な行政サービスにかかる費用は、主に税金で賄われています。一方で、上下水道事業は、使用者に負担していただく水道料金や下水道使用料を主な財源として運営しています。これは、水道水の使用量に応じて公平に費用を負担していただきながら、将来にわたって安定したサービスを継続的に提供するための仕組みです。頂いた料金は、施設の維持管理や更新、災害への備えなどに活用し、安全で安心な水道水の供給や生活排水の処理に役立てられています。

**人口減で収入減
物価高騰で支出増**

しかし、町の人口は平成25年をピークに減少に転じ、それに伴い給水人口も減少しています。さらに、節水機器の普及などで使用水量も減少し、収入は減少傾向にあります。令和3年10月に料金改定を行ったことで、一時的に収入は増加したものの、その後は再び減少に転じています。このまま減少傾向が続くと、将来的に上下水道事業の運営に必要な費用を賄うことが難しくなる恐れがあります。また、近



年の電気代や資材費の高騰で、浄水場や浄化センター、管路などの維持管理費は増加しています。このような状況でも、安全で持続的な上下水道サービスを維持するためには、水道管や下水道管の計画的な更新、施設の耐震化や汚水処理設備の充実などに、今後も継続して取り組む必要があります。

水を支える施設

【浄水施設】

浄水施設では、地下から汲み上げた水を酸化槽で消毒したり急速ろ過機でさらに水をきれいにしたりして、送水ポンプで配水池に水を送っています。



◀ 浄水場



◀ 急速ろ過機



◀ 送水ポンプ

【配水施設】

山の高い場所にある配水池に送水ポンプで送られてきた水をため、家庭や施設などに水を送っています。



▲ 高尾配水池



▲ 海老津配水池

【下水処理施設】

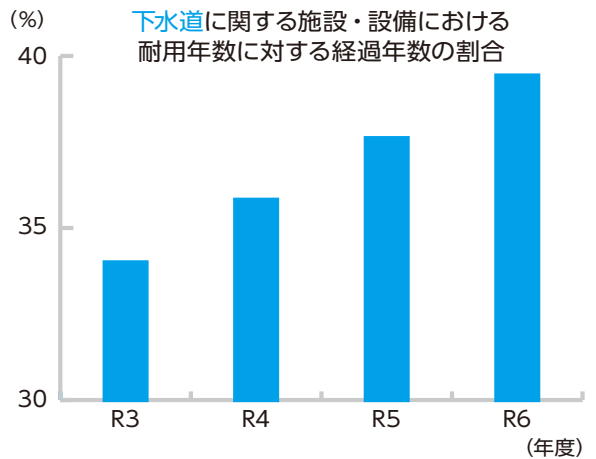
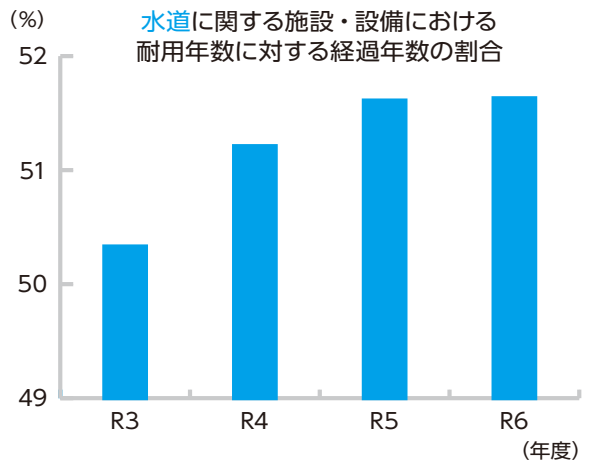
家庭や施設などからの汚れた水をきれいにし、川に戻します。



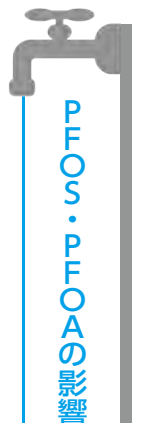
◀ 浄化センター



町の施設・設備における老朽化の進み具合は、下のグラフから確認することができます。数値が高いほど老朽化が進んでいることを表し、管路や施設の更新・改修を進めることで、その上昇を抑えることができます。グラフを見ると、水道・下水道ともに老朽化は徐々に進んでおり、更新・改修が滞ると数値が上昇するため、引き続き計画的な工事が必要です。



PFOS・PFOA(※)の影響で、一部の水源井戸で取水を停止しています。水質を安全な状態に保つための管理や定期的なモニタリングを継続し、安全な水道水の安定供給に努めています。一方で、これらの取り組みに伴い、モニタリング費や取水の不足分を補う受水費などの経費が増加し、水道事業の運営を圧迫しつつあります。



人口減少などで収入は減少していますが、施設や設備の老朽化は着実に進んでいます。必要な更新などが十分に進まない場合、水道管の漏水や設備の機能低下につながる恐れがあります。また、老朽化した施設を短期間で集中的に更新する必要があると、将来的な費用負担が大きくなることも考えられます。将来にわたって安全で持続的な上下水道サービスを維持するためには、計画的に更新や改修を進めていくことが重要です。

※ PFOS・PFOA：健康への影響が懸念されている有機フッ素化合物の一種

経営戦略を見直しました

— 将来も安全な水を届けるため —

今後も安全で持続的な上下水道サービスを維持するため、令和7年10月に上下水道事業の経営戦略を見直しました。これは、施設・設備の老朽化や人口減少などの課題を見据え、令和8年度から10年間の事業の方向性や必要な投資、財源の見直しなどをまとめた計画です。

水道 主な取り組み



漏水した水道管

1

トラブルに素早く対応

水道管の漏水や破損などのリスクを軽減するために、漏水箇所の早期発見・修理に取り組みます。

2

地震に強い耐震管に更新

令和6年に発生した能登半島地震の被害状況を踏まえ、団地造成から相当の年数が経過した地域を中心に配水管を計画的に更新します。昨年度に導入した「AIによる水道管路劣化診断システム」を活用し、効率良く耐震管への更新を進めます。

3

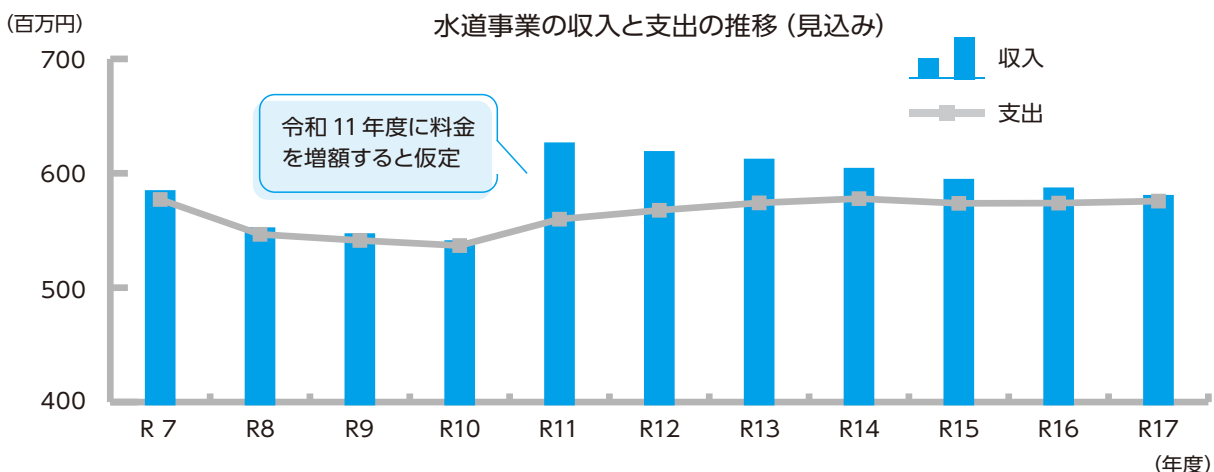
新たな水源の開発

新たな水源を開発し、持続可能で安定的な地下水を確保するとともに、PFOS・PFOAの影響による取水不足への対応に努めます。

4

水道料金の改定を検討

利用者に負担していただく水道料金で、水道事業を安定的に運営できる状態を維持することを基本とし、必要に応じて料金の見直しを検討します。





特集

暮らしを支える

水のこれから

下水道 主な取り組み

1

効率的な下水処理に変更

これまでの下水処理方法から「OD法（オキシデーショ
ンディッチ法）」という省エネで安定した方法への変更
を進めます。併せて、施設の管理や更新をまとめて行
う「ウォーターPPP（官民連携）」の導入も検討し、より
効率的な運営を目指します。

2

設備の災害対策を強化

町が策定した「上下水道耐震化計画」に基づき、管路
の強化、マンホールの浮き上がり防止対策などを計画
的に進めます。

3

下水道使用料の改定を検討

水道事業と同様に、利用者に負担していただく下水
道使用料で、下水道事業を安定的に運営できる状態を
維持することを基本とし、必要に応じて使用料の見直し
を検討します。



岡垣町上下水道事業審議会
会長 川崎 智寛 さん

INTERVIEW

将来の世代に 質の高い上下水道サービスを

上下水道事業の経営戦略の見直しについ
て、3年間にわたって熱心に審議してい
ただいた岡垣町上下水道事業審議会の川崎会
長に話を伺いました。

人口減少が進む中、上下水道事業は岡
垣町だけでなく、全国的にも厳しい経営
環境に置かれています。しかし、蛇口を
ひねれば安全でおいしい水が使えるこ
とや、安心して下水道を利用できるこ
とは、浄水場や処理施設、水道管など
日々維持管理しているからこそです。
審議会では、経営戦略について議論を
重ねてきましたが、今後の経営状況に
よっては、事業運営のあり方について検
討が必要となる場面も考えられます。な
ぜなら、安心して使える上下水道を将来
の世代に引き継いでいくためには、持続
可能な事業運営が欠かせないからです。
上下水道は、住民の暮らしを支える大
切なライフラインです。この経営戦略を
もとに、これからもきれいな水を未来に
つないでいけるよう、住民の皆さんと
ともに考え、見守っていききたいと思
います。

上下水道事業の経営戦略や
PFOS・PFOA に関すること

詳しくは、町公式ホームページへ



これからも安定した
上下水道サービスを提供します

いつでも安全な水が使える
こと。そんな「当たり前」
を守るため、改定した経営
戦略をもとに、計画的な工
事や効率的な事業運営を進
めていきます。
また、PFOS・PFO
Aに関する水質検査結果や
町の対応については、町公
式ホームページで随時公表
しています。今後も、適時・
適切な情報発信に努めます。